

おおくにたまじんじゃ ななふしぎ  
大國魂神社の七不思議



?

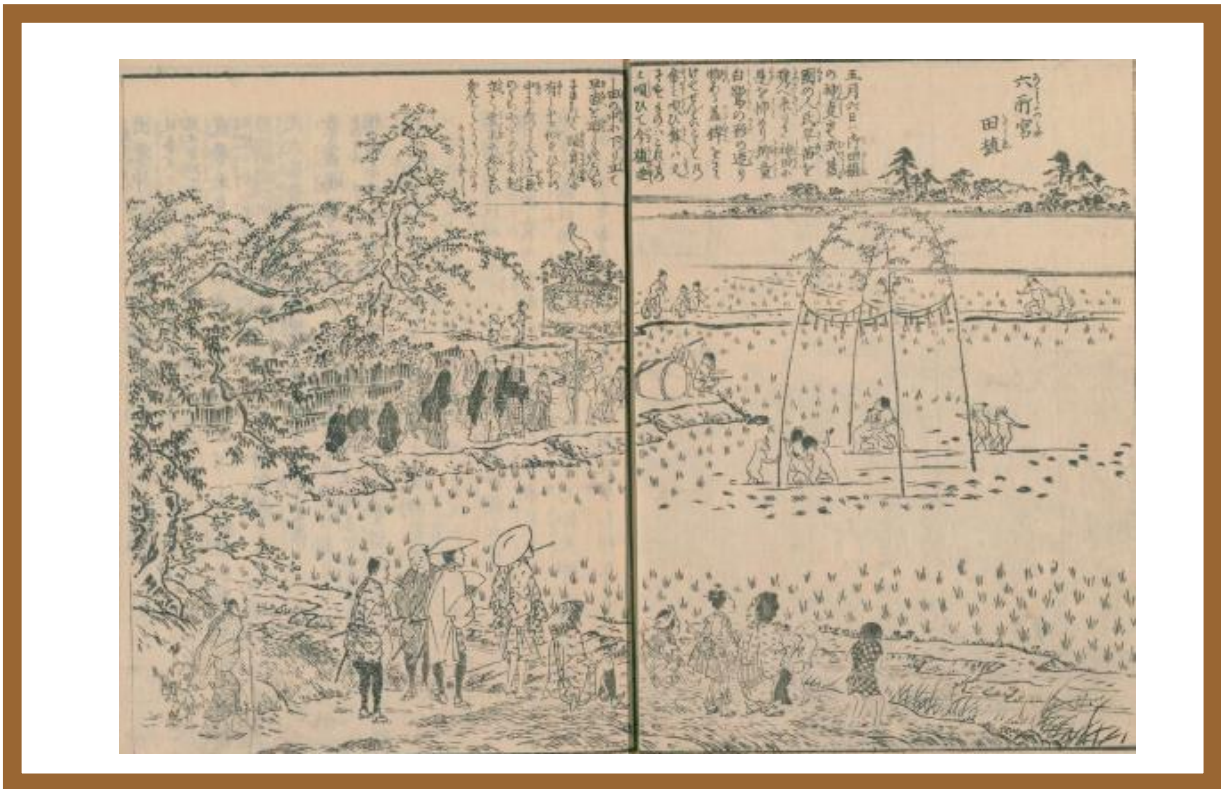
府中ではお正月に門松を立てないって、  
おばあちゃんが言ってたけど、何でだろう？

そのひみつがこの七不思議に隠されています。  
さあ、一緒に調べてみましょう。

## 1. 御供田の苗

むかし、現在の東京競馬場北西の駐車場あたりに、神社にお供えするお米を作る御供田がありました。そこでは旧暦の5月6日に御田植祭がおこなわれていました。

その様子が天保7年(1836年)に刊行された『江戸名所図会』に紹介されています。



画像は国立国会図書館ウェブサイトから転載

『江戸名所図会』 田んぼの脇には、白鷺と楓の若葉で飾られた傘鉾を持つ男の人と、太鼓を鳴らす男の子がいます。田んぼの中では元気に相撲をしている男の子たちがいて、見物人もたくさん集まっています。

御供田に苗を1株でも植えれば、その年はまったく病気をせず健康でいられ、自分の家の農作物も豊作になると信じられていたので、人々は競って持ってきた苗を植えました。そして、田植えが終わると、大勢の男の子が裸になって、田んぼの中で相撲をとる習わしでした。

不思議なことに、次の朝、相撲で踏み荒らされた苗はまっすぐに起き上がったそうです。

そればかりではなく、人々が持ち寄ったさまざまな種類の苗(米苗、餅苗)を植えたは

すなのに、秋になるとみんないっせいに同じ稲穂<sup>いなほ</sup>が出たそうです。

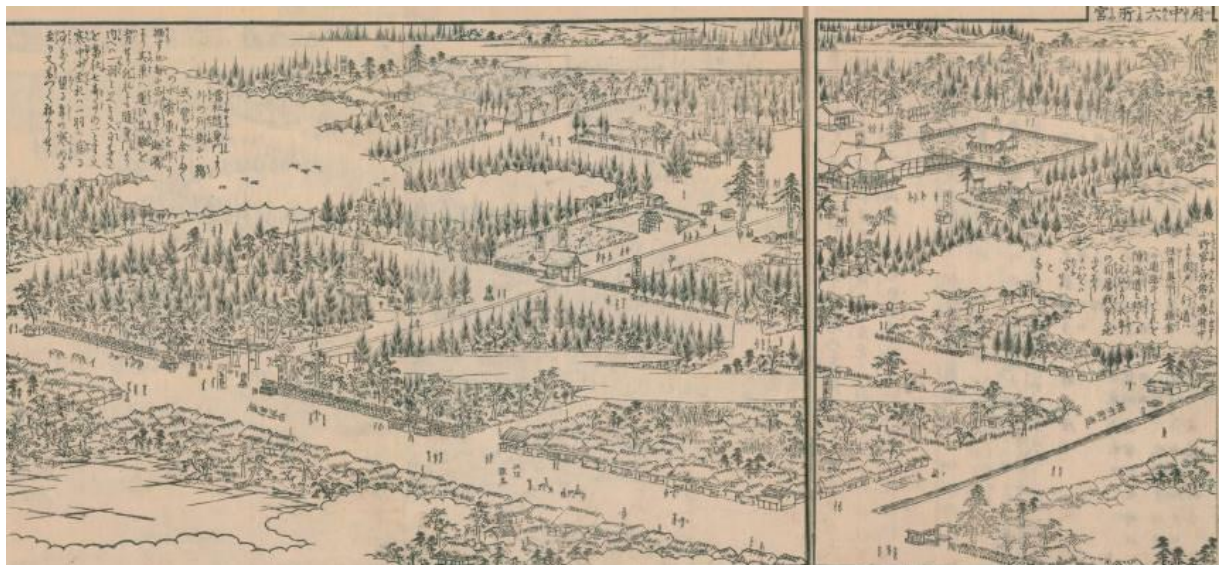
この御供田は、明治維新<sup>めいじいしん</sup>のとき、神社<sup>じんじや</sup>の境内<sup>けんだい</sup>以外の土地<sup>いがい</sup>として政府<sup>とち</sup>に上納<sup>せいふ</sup>させられました。それ以来<sup>いらい</sup>、御田植祭<sup>ごでんぢさい</sup>は行われていなかったのですが、1990年に時期<sup>しき</sup>と場所<sup>ふっかつ</sup>を変え、復活しました。農家<sup>のうか</sup>と農協<sup>のうきょう</sup>、地元<sup>じもと</sup>の子どもたちの協<sup>きょう</sup>力<sup>りよく</sup>で現在も続けられています。

## 2. 大杉<sup>おおすぎ</sup>の根<sup>ね</sup>

むかし、神社<sup>じんじや</sup>には杉<sup>すぎ</sup>の木<sup>き</sup>がたくさん生<sup>は</sup>えていました。

♪ 大國魂<sup>おおくにたま</sup>の杉森<sup>すぎもり</sup>に、輝<sup>かがや</sup>き昇<sup>のぼ</sup>る朝日<sup>あさひ</sup>かげ・・・・・・♪

府中第一<sup>ふちゅうだい</sup>小<sup>いち</sup>学<sup>しょう</sup>校<sup>がっこう</sup>の前身<sup>ぜんしん</sup>である府中<sup>ふちゅう</sup>学<sup>がっこう</sup>校<sup>こう</sup>の校歌<sup>こうか</sup>で、「杉森<sup>すぎもり</sup>」と歌<sup>うた</sup>われたほどです。その様子<sup>ようす</sup>は、下の『江戸名所<sup>えどめいしよ</sup>図会<sup>ずえ</sup>』の中<sup>な</sup>にある神社<sup>じんじや</sup>の絵<sup>え</sup>を見てもわかります。



画像は国立国会図書館ウェブサイトから転載

杉<sup>ね</sup>の木<sup>き</sup>は大きくなると、根<sup>ね</sup>が地表<sup>ちひょう</sup>に出<sup>で</sup>てきてそのゴツゴツとした姿<sup>すがた</sup>をみせます。しかし、参道<sup>さんどう</sup>沿<sup>そ</sup>い<sup>に</sup>にあった杉<sup>ね</sup>の木<sup>き</sup>は大國魂<sup>おおくにたま</sup>の神様<sup>かみさま</sup>に遠慮<sup>えんりょ</sup>したのか、根<sup>ね</sup>が参道<sup>さんどう</sup>まで出<sup>で</sup>てくることはなかったそうです。

現在<sup>げんざい</sup>はいろいろな環<sup>かんきょう</sup>境<sup>へんか</sup>変化<sup>えんぎょう</sup>の影<sup>かげ</sup>響<sup>きょう</sup>で枯<sup>か</sup>れてしまいました。



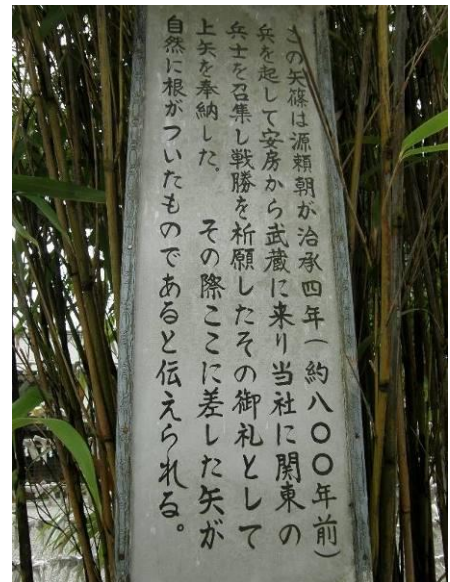
### 3. 境内の鳥類

むかし、神社の境内の森には鳥、鷺、鶯などたくさんの鳥がすんでいました。けれど、鳥たちは決して本殿などの建物に糞を落とすことはなかったと言われています。



### 4. 矢竹の根

神社の拝殿近くに竹が生え、石で囲われたところがあります。神社の言い伝えによると、むかし源頼朝が戦いに勝つことを祈って、拝殿の前に竹の矢を挿しました。竹の矢は根付いて、その後何百年も竹となって生い茂ったのですが、石囲いの外には一本も出ないということです。





## 5. 大銀杏のにな貝

神社本殿の南西側裏に 1000 年近くも生きて  
いる銀杏の大木があります。むかし、この大銀杏  
の根元には、にな貝\*がすんでいました。この  
にな貝を煮出して飲むとお母さんのおっぱいの  
でがよくなると言われていました。貝をとるた  
めに多くの人が根元を掘ったためでしょうか。  
木の成長は止まってしまいました。

\*にな貝の「にな」とは巻貝のことを言います。大銀杏の木の根元にすんでいたのは木の幹や落ち葉の下、岩陰など、  
昼でも薄暗い場所で暮らすキセルガイ（カタツムリ的一种で陸にすむ貝）ではないかと思われます。

## 6. 境内に松の木なし



むかし、大國魂の神様が八幡様といっしょに府中に現れた時、泊るところを探しに行っ  
た八幡様は、気に入った場所を見つけると、一人で住んでしまいました。今の八幡町です。  
大國魂の神様は八幡様の帰りをずっと待ち続けることになってしまいました。大國魂の神  
様は待ちくたびれて、

「まつのはつらい。まつはきれいじゃ」

とおっしゃって、その場所に住むことにしました。そこが現在の大國魂神社の場所です。

このことから大國魂の神様は「まつ」を嫌うようになったので、神社の境内には「松」  
の木は一本もなく、植えても枯れてしまうということです。神社も松の木を使わずに建て  
られました。神社ではもちろんお正月の飾りは竹飾りですし、府中では今でもお正月に竹  
飾りをして、松飾りをしない家があります。

## 7. 縦の雫

むかし、神社には大きな縦の木がありました。その縦の木は晴れた日でも雫が降ってくる  
ことがあったといひます。『大國魂神社略誌』には春夏秋冬の一年を通じて雫が落ちてき  
ていたと書かれています。この不思議な縦の木は今なくなりましたが、神社の  
中にある別の縦の木は府中の名木百選に選ばれています。

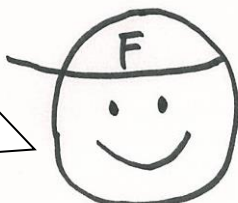
## もっと知りたくなったら読む本のリスト

| 書名                              | 著者                               | 出版社                        | 出版年   | 本の背ラベル    |
|---------------------------------|----------------------------------|----------------------------|-------|-----------|
| 府中の伝説をもとにした絵本                   |                                  |                            |       |           |
| まちはきらい                          | おざわとしお<br>小澤俊夫                   | 府中市教育委員会                   | 1986年 | F38/オ     |
| 東京のさまざまな伝説が書かれている本              |                                  |                            |       |           |
| 東京の伝説                           | 東京伝説の会                           | 日本標準                       | 1981年 | F388/00/ト |
| 大國魂神社の年間の行事について写真と文で紹介している本     |                                  |                            |       |           |
| 大國魂神社の歳時記                       | さくらい のぶお<br>桜井信夫                 | ネット武蔵野                     | 2002年 | F17/サ     |
| 府中市のおいたちや地名の由来など、基本的なことが書かれている本 |                                  |                            |       |           |
| 府中の風土誌 第7版                      | 府中市                              |                            | 1981年 | F21/フ     |
| その他                             |                                  |                            |       |           |
| 府中史談 第22号                       | 府中史談会                            |                            | 1996年 | F213/10/フ |
| 官幣大國魂神社略誌                       | 大國魂神社                            |                            | 1934年 | F175/10/カ |
| くらやみ祭                           | さわたもりふみ あやべよしお<br>猿渡盛文・綾部好男      | みつ むら きょういく と しよ<br>光村教育図書 | 1998年 | F386/10/サ |
| 府中市郷土の森博物館ブックレット5<br>武蔵府中くらやみ祭  | ふちゅうしきょうど もりはくぶつかん<br>府中市郷土の森博物館 |                            | 2004年 | F386/10/△ |
| 府中の口伝え集                         | 府中市立郷土館                          | 府中市教育委員会                   | 1986年 | F38/フ     |

大國魂神社ホームページ

<http://www.ookunitamajinja.or.jp/>

さがしている本が  
みつからないとき  
は、としょかんの人  
にきいてみよう。



「大國魂神社の七不思議」 こども府中はかせ No.1 2011年4月発行  
府中市立図書館 編集・発行  
<http://library.city.fuchu.tokyo.jp/>